

11月1日 児童朝会での講話

大平悦子さん、当時2年生の詩を紹介します。題名は「わたし」です。

お父さんがお母さんとけっこんして わたしが生まれた お母さんが ほかの人とけっこんしてたら わたしは どうなっていたのだろう
--

さて、皆さん。わたしはどうなっていたと思いますか。

答えは、「いなかった」です。

ですから、お父さん、お母さんに「わたしを生んでくれて、ありがとう」と感謝しなければいけません。

また、授かったかけがえのない命を、何よりも大切にしなければいけません。

9月13日の児童朝会で、校長先生が小学生だった頃に一人の女の子が仲間はずれにされたことがあったとお話をしました。覚えていますか。

先週の新聞に、楽しいはずの給食の時間に、いつも一人ぼっちで食べる女の子がいたと載っていました。その子は、どんな気持ちで食べていたと思いますか。

もし、その子が自分だったらどうですか。まわりにいる子がその子の気持ちを考えて、いっしょに食べようと声をかけてほしいと思います。

今週は学芸会があります。皆さんの頑張りを期待しています。今日は、かけがえのない自分と相手の命を大切にしてほしいというお話をしました。